

#### 4 特定課題

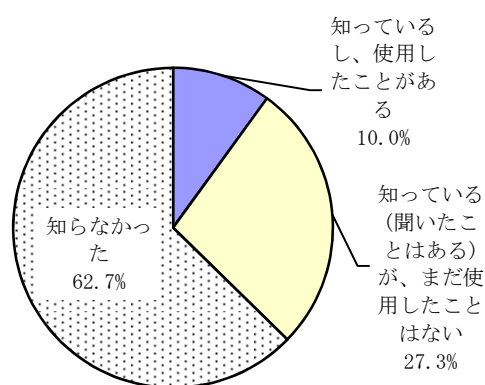
##### えひめFreeWi-Fi

##### 問33 えひめFreeWi-Fiの認知度

愛媛県では、外国人観光客や県内外の旅行者、地域住民等が無料で利用できるWi-Fiスポットの整備を民設民営で進めることにより、その利便性を確保し、愛媛県内の地域活性化を図る「えひめFreeWi-Fiプロジェクト」を推進しています。あなたは、この「えひめFreeWi-Fi」をご存知ですか。また、使用したことがありますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

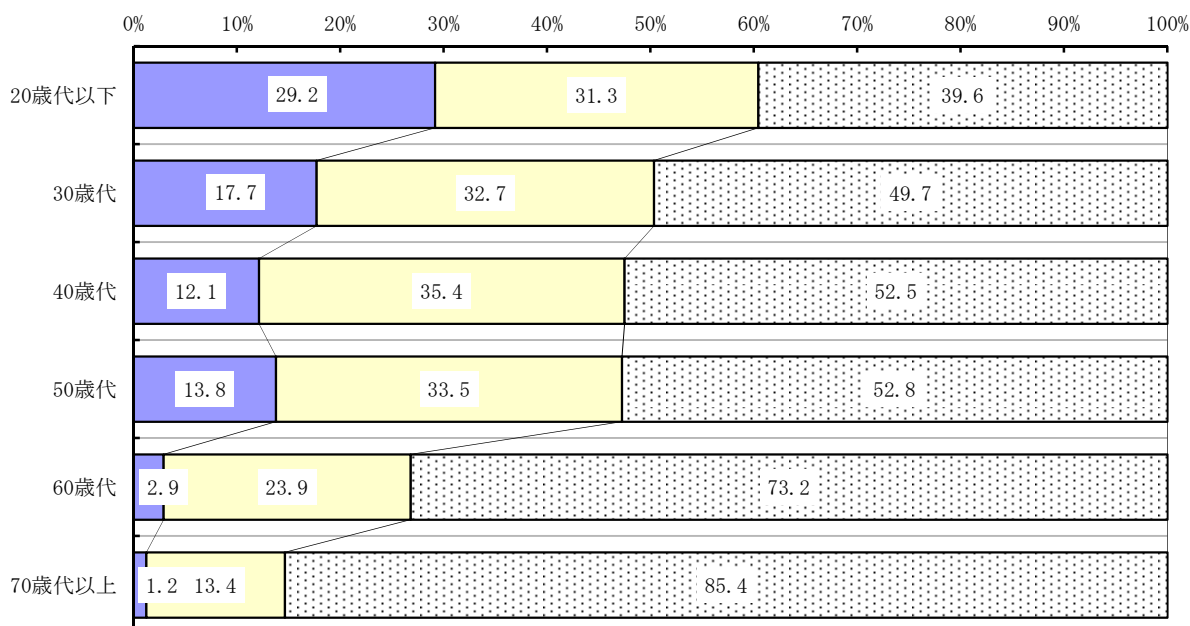
	(%)
1 知っているし、使用したことがある	10.0
2 知っている(聞いたことはある)が、まだ使用したことはない	27.3
3 知らなかった	62.7

「えひめFreeWi-Fi」を知っているか、また、使用したことがあるかを聞いたところ、「知っているし、使用したことがある」と答えた人の割合が10.0%、「知っている(聞いたことはある)が、まだ使用したことはない」が27.3%、「知らなかった」が62.7%となっている。



##### 【年齢別】

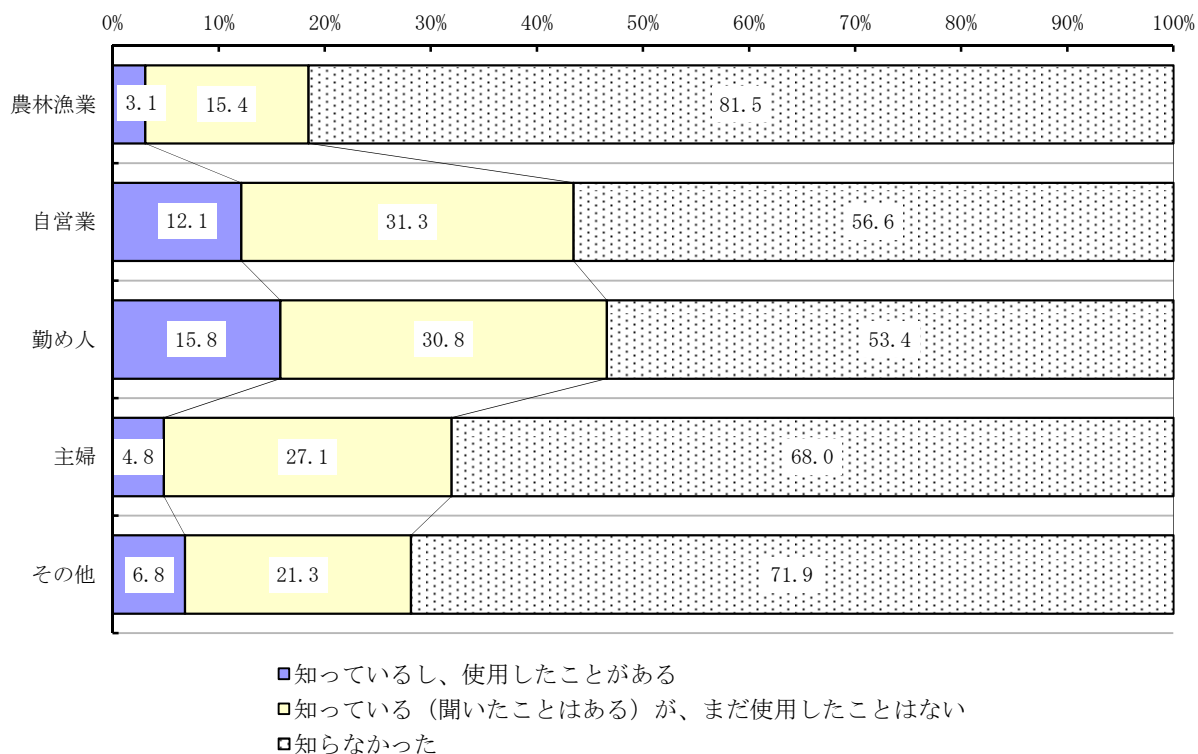
年齢別にみると、「知っているし、使用したことがある」と答えた人の割合が、20歳代以下(29.2%)で最も多く、70歳代以上(1.2%)で最も少なくなっており、年齢層が高くなるほど「知らなかった」と答えた人の割合が多くなっている。



- 知っているし、使用したことがある
- 知っている(聞いたことはある)が、まだ使用したことはない
- 知らなかった

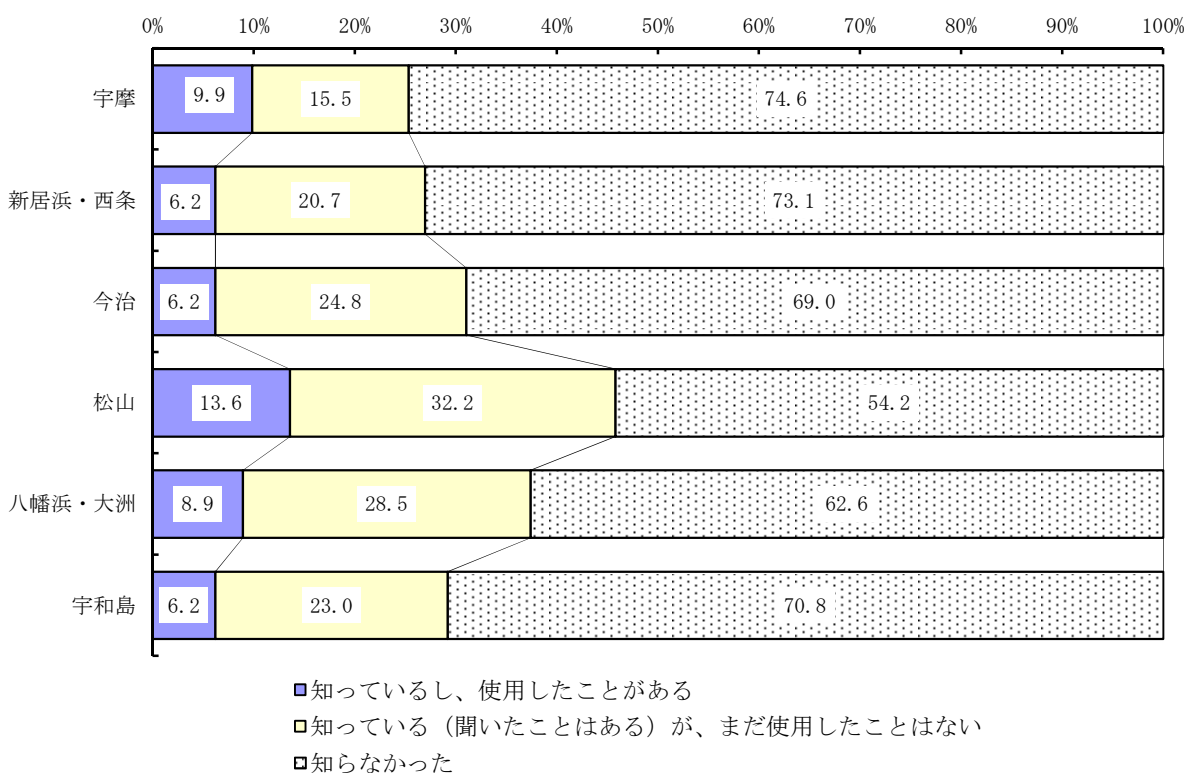
### 【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「知らなかった」と答えた人の割合が最も多く、特に農林漁業で81.5%と他の職業と比較して多い。逆に、「知っている」と答えた人の割合は、勤め人（15.8%）が他の職業と比較して多くなっている。



### 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らなかった」と答えた人の割合が最も多い。また、松山圏域では、「知っているし、使用したことがある」と「知っている（聞いたことはある）」の割合の合計が他の圏域と比較して多くなっている。

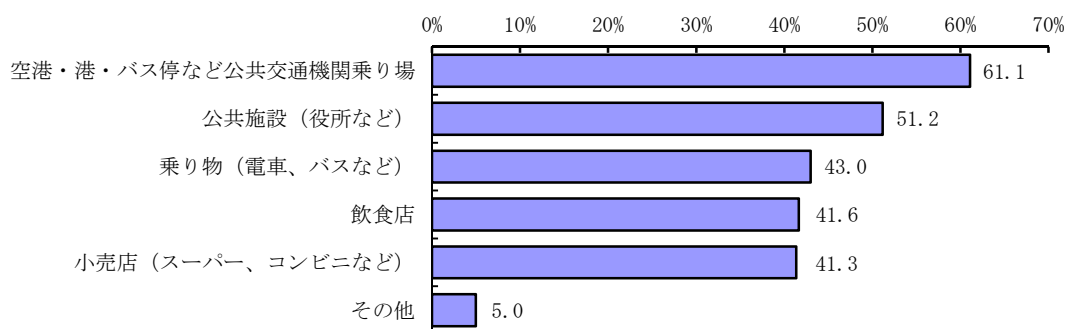


### 問33-1 えひめFreeWi-Fiを利用したい施設

「えひめFreeWi-Fi」を利用したい施設を次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

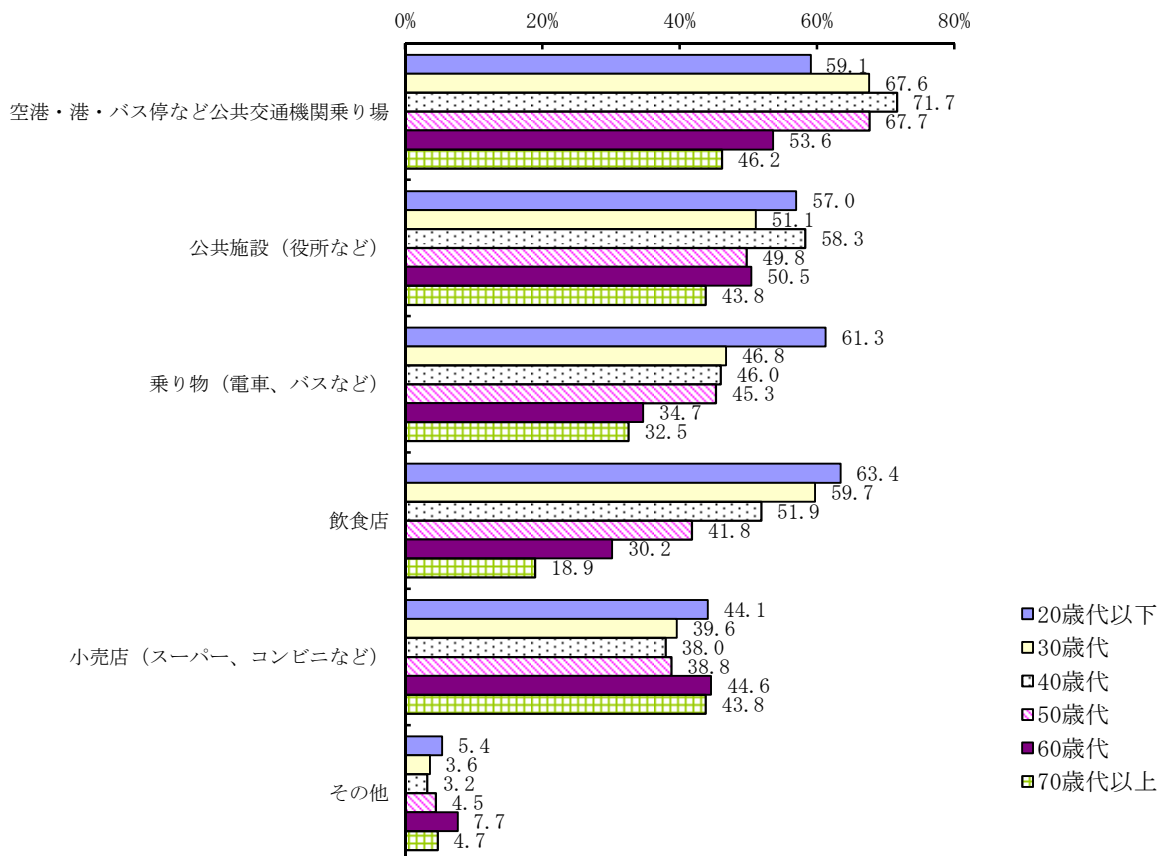
	(複数回答)	(%)
1 公共施設（役所など）		51.2
2 空港・港・バス停など公共交通機関乗り場		61.1
3 乗り物（電車、バスなど）		43.0
4 飲食店		41.6
5 小売店（スーパー、コンビニなど）		41.3
6 その他		5.0

「えひめFreeWi-Fi」を利用したい施設を聞いたところ、「空港・港・バス停など公共交通機関乗り場」と答えた人の割合が61.1%と最も多く、以下「公共施設（役所など）」（51.2%）、「乗り物（電車、バスなど）」（43.0%）、「飲食店」（41.6%）、「小売店（スーパー、コンビニなど）」（41.3%）などの順となっている。



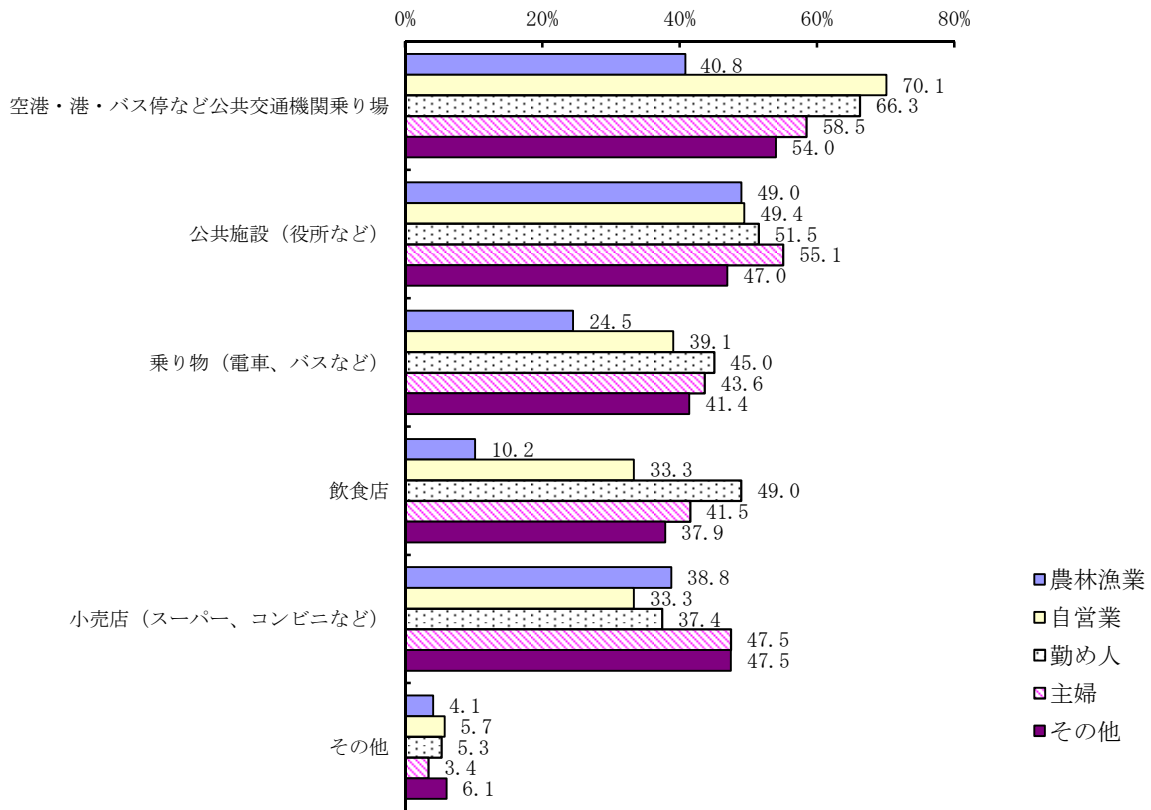
#### 【年齢別】

年齢別にみると、30歳代以上では「空港・港・バス停など公共交通機関乗り場」と答えた人の割合が最も多く、20歳代以下では「飲食店」が最も多くなっている。



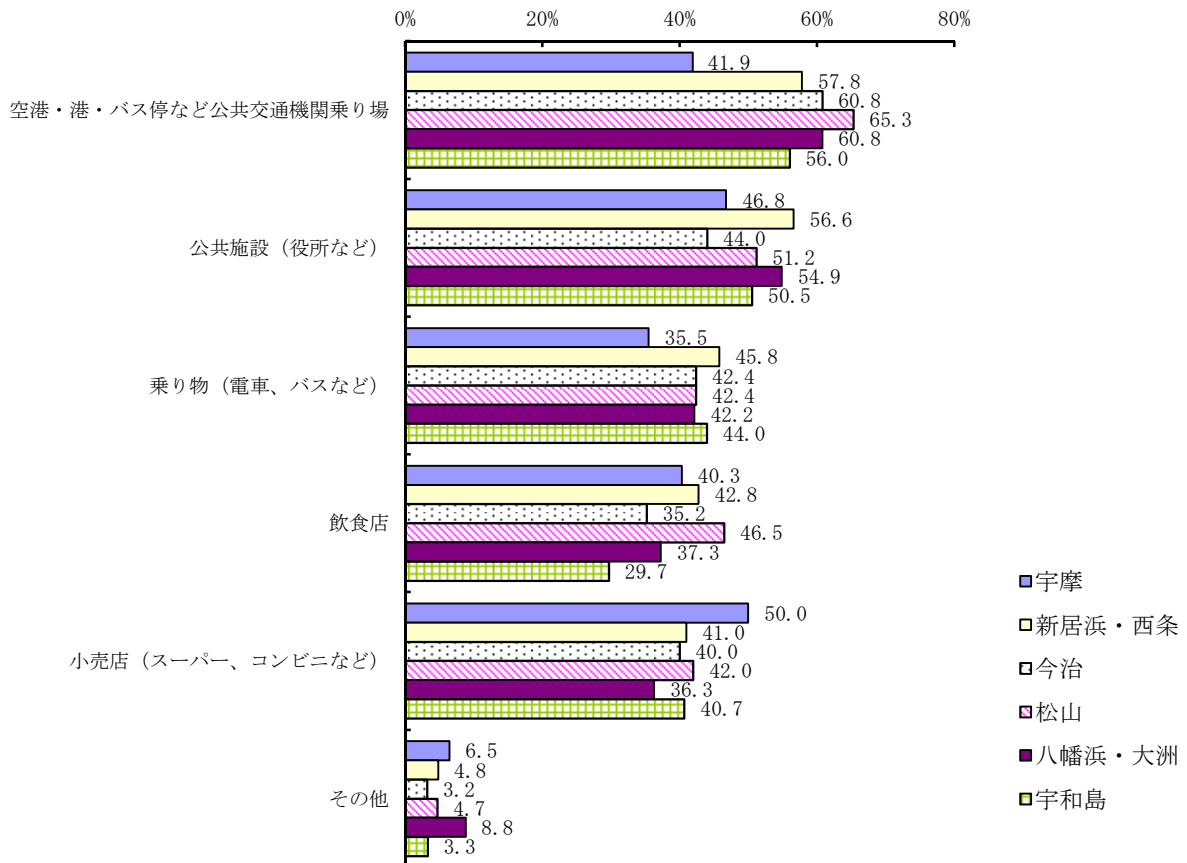
【職業別】

職業別にみると、農林漁業を除く全ての職業で「空港・港・バス停など公共交通機関乗り場」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では「公共施設（役所など）」が最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域を除く全ての圏域で「空港・港・バス停など公共交通機関乗り場」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域では「小売店（スーパー、コンビニなど）」が最も多くなっている。



## 食品ロス

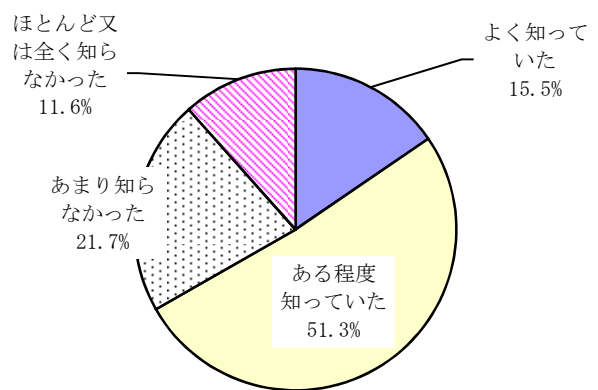
### 問34 食品ロスの認知度

日本では年間約2,797万トンの食品廃棄物等が排出されていますが、このうち、食べられるのに廃棄される食品（「食品ロス」）は約632万トンと試算され（※）、「食品ロス」が資源・環境等の観点から大きな問題となっています。あなたは、こうした「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 よく知っていた	15.5
2 ある程度知っていた	51.3
3 あまり知らなかった	21.7
4 ほとんど又は全く知らなかった	11.6

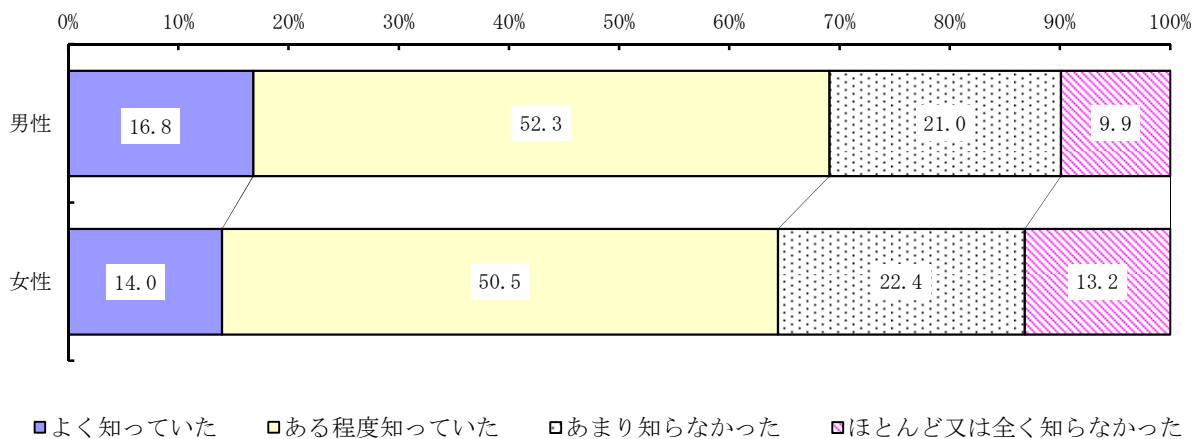
※農林水産省「食品廃棄物等の利用状況等（平成25年度推計）」

「食品ロス」が問題となっていることを知っているかを聞いたところ、「よく知っていた」と答えた人の割合が15.5%、「ある程度知っていた」が51.3%、「あまり知らなかった」が21.7%、「ほとんど又は全く知らなかった」が11.6%となっている。



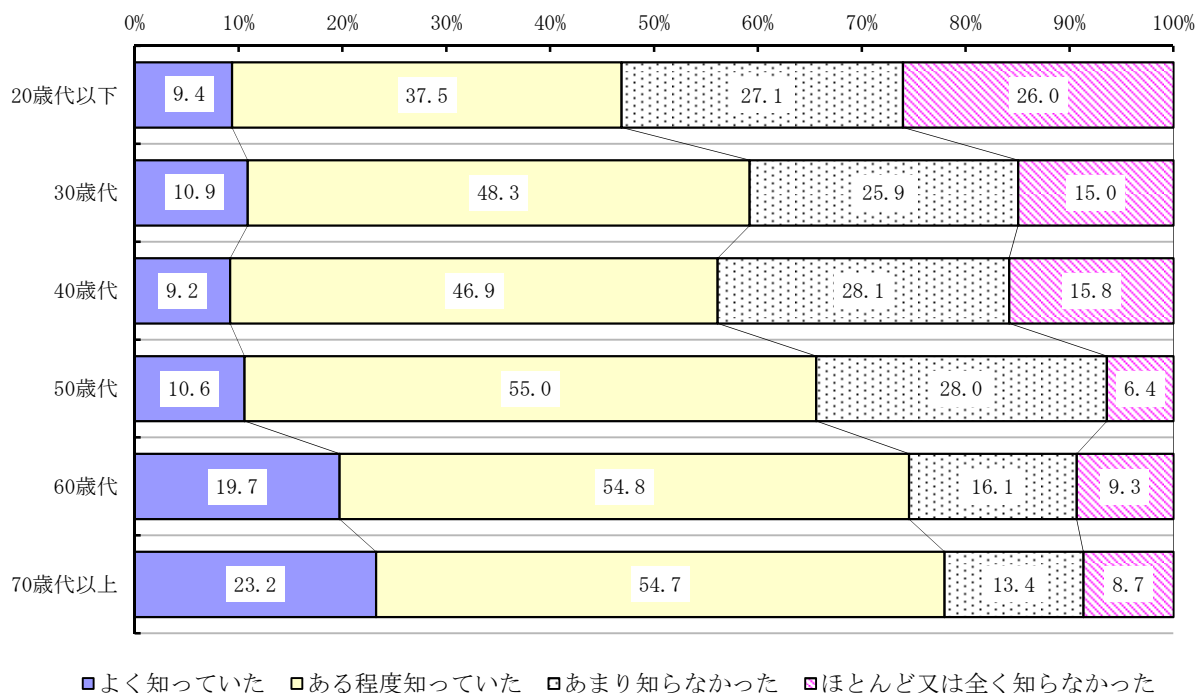
#### 【性別】

性別にみると、「よく知っていた」と答えた人の割合は、男性（16.8%）の方が女性（14.0%）より2.8ポイント多く、「ほとんど又は全く知らなかった」は、女性（13.2%）の方が男性（9.9%）より3.3ポイント多くなっている。



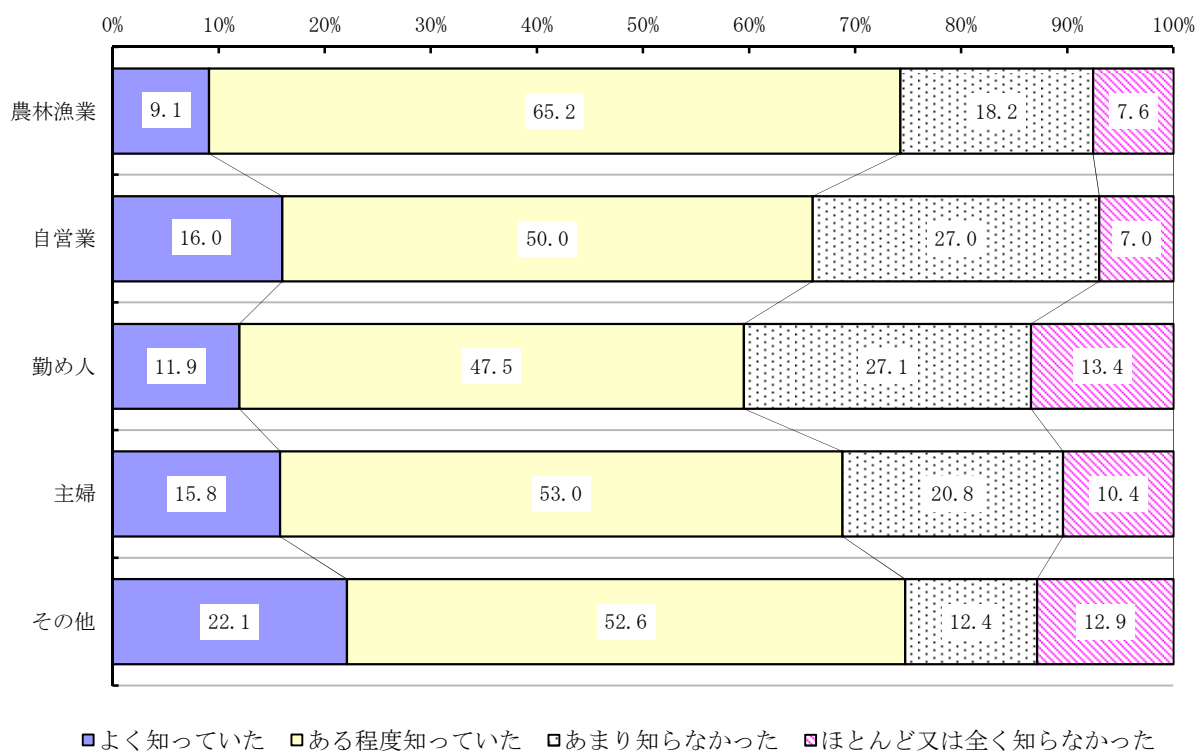
### 【年齢別】

年齢別にみると、「よく知っていた」と「ある程度知っていた」と答えた人の割合の合計は、70歳代以上（77.9%）で最も多く、20歳代以下（46.9%）で最も少なくなっている。  
概ね、年齢層が高くなるほど認知度が高くなっている。



### 【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「ある程度知っていた」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業（65.2%）で他の職業と比較して多くなっている。



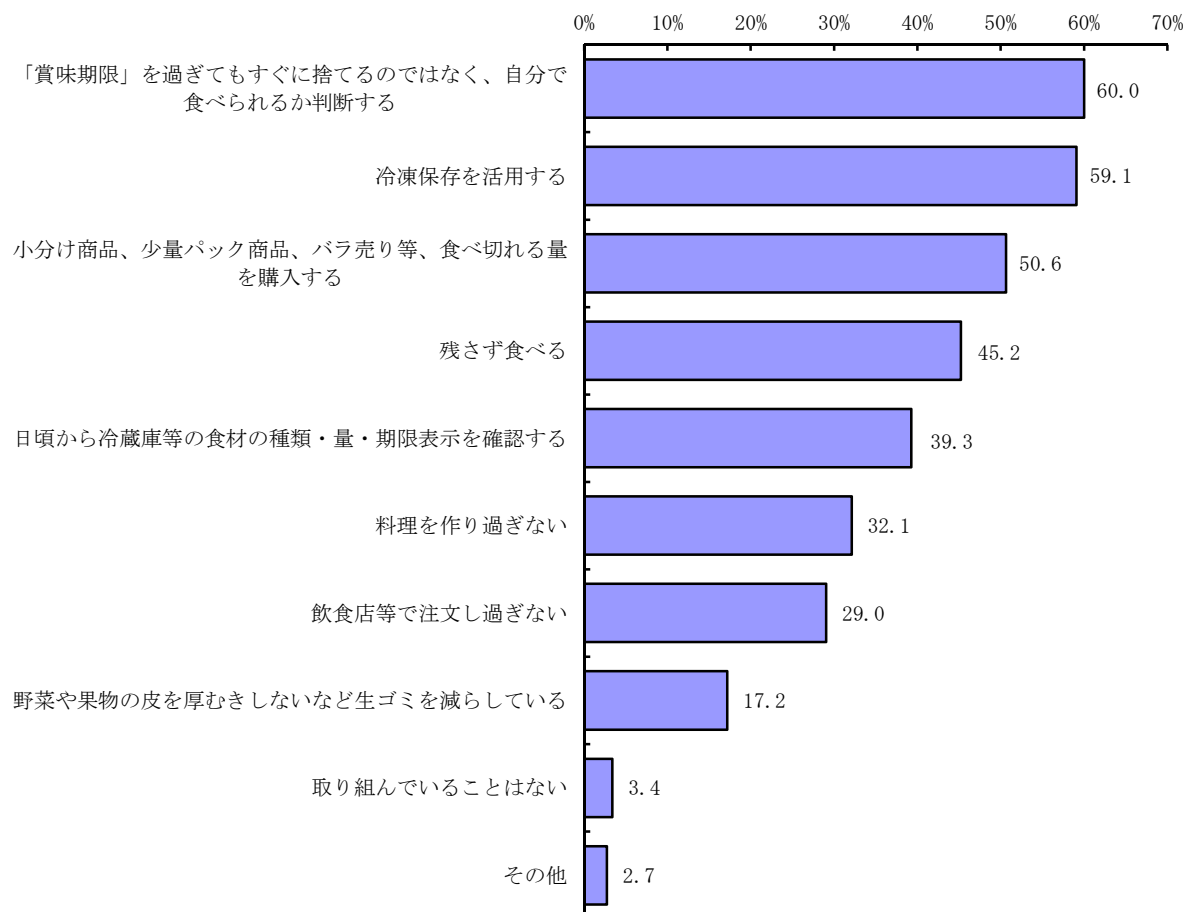
### 問34-1 食品ロス軽減の取組み

約632万トンの「食品ロス」のうち、「何も手が付けられずに捨てられている食品（手つかず食品）」や、「食べ残された食品（食べ残し）」「皮を厚くむき過ぎたりして過剰に捨てられるもの（過剰除去）」などにより、約半分の約302万トンが一般家庭から発生しています。あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する	50.6	
2 冷凍保存を活用する	59.1	
3 野菜や果物の皮を厚むきしないなど生ゴミを減らしている	17.2	
4 料理を作り過ぎない	32.1	
5 飲食店等で注文し過ぎない	29.0	
6 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	39.3	
7 残さず食べる	45.2	
8 「賞味期限」(※)を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	60.0	
9 その他	2.7	
10 取り組んでいることはない	3.4	

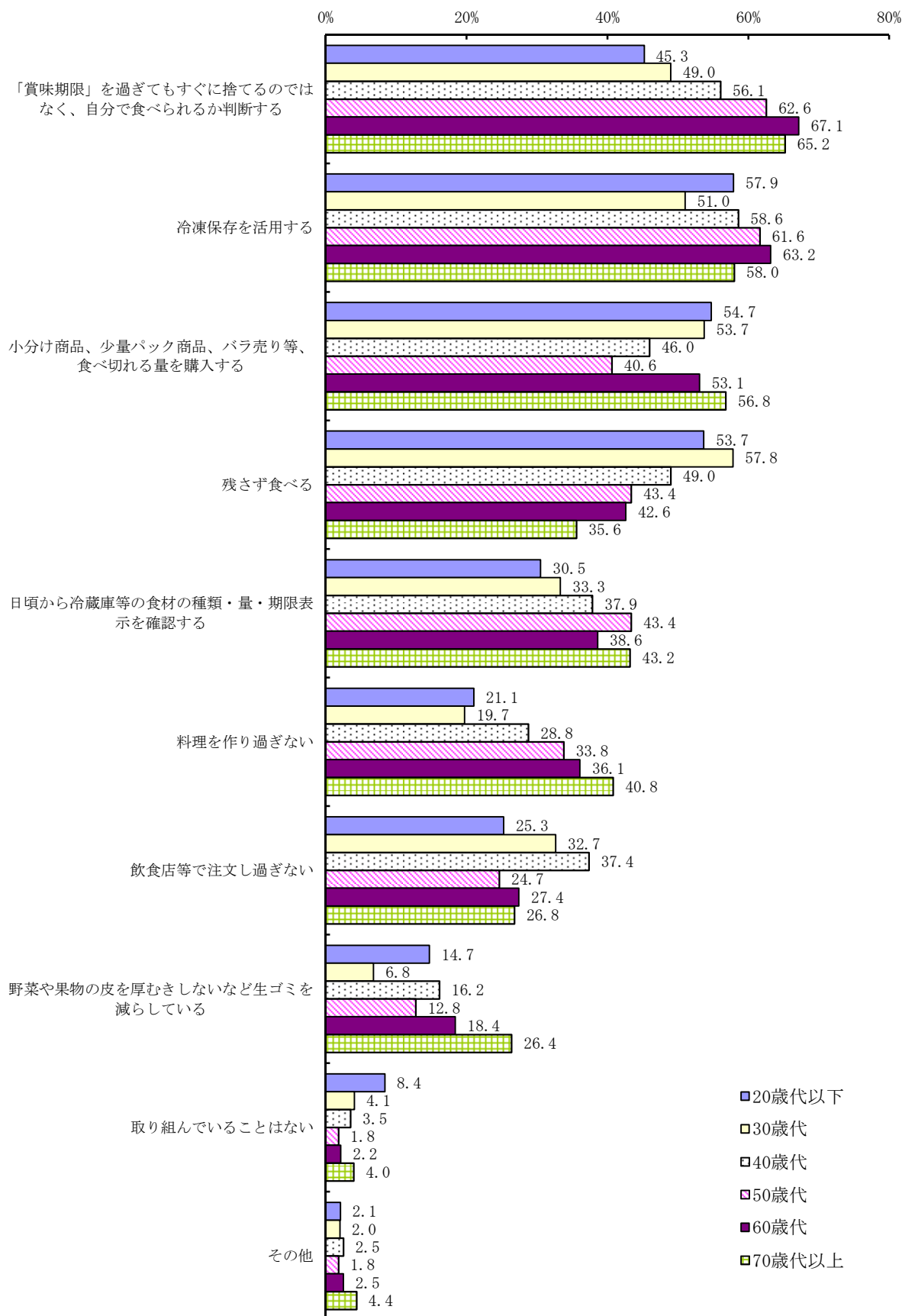
※「賞味期限」は、開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときにおいしく食べることができる期限のことで、この期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるということではない。

「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることについて聞いたところ、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」と答えた人の割合が60.0%で最も多く、以下「冷凍保存を活用する」(59.1%)、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する」(50.6%)、「残さず食べる」(45.2%)、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」(39.3%)などの順となっている。



## 【年齢別】

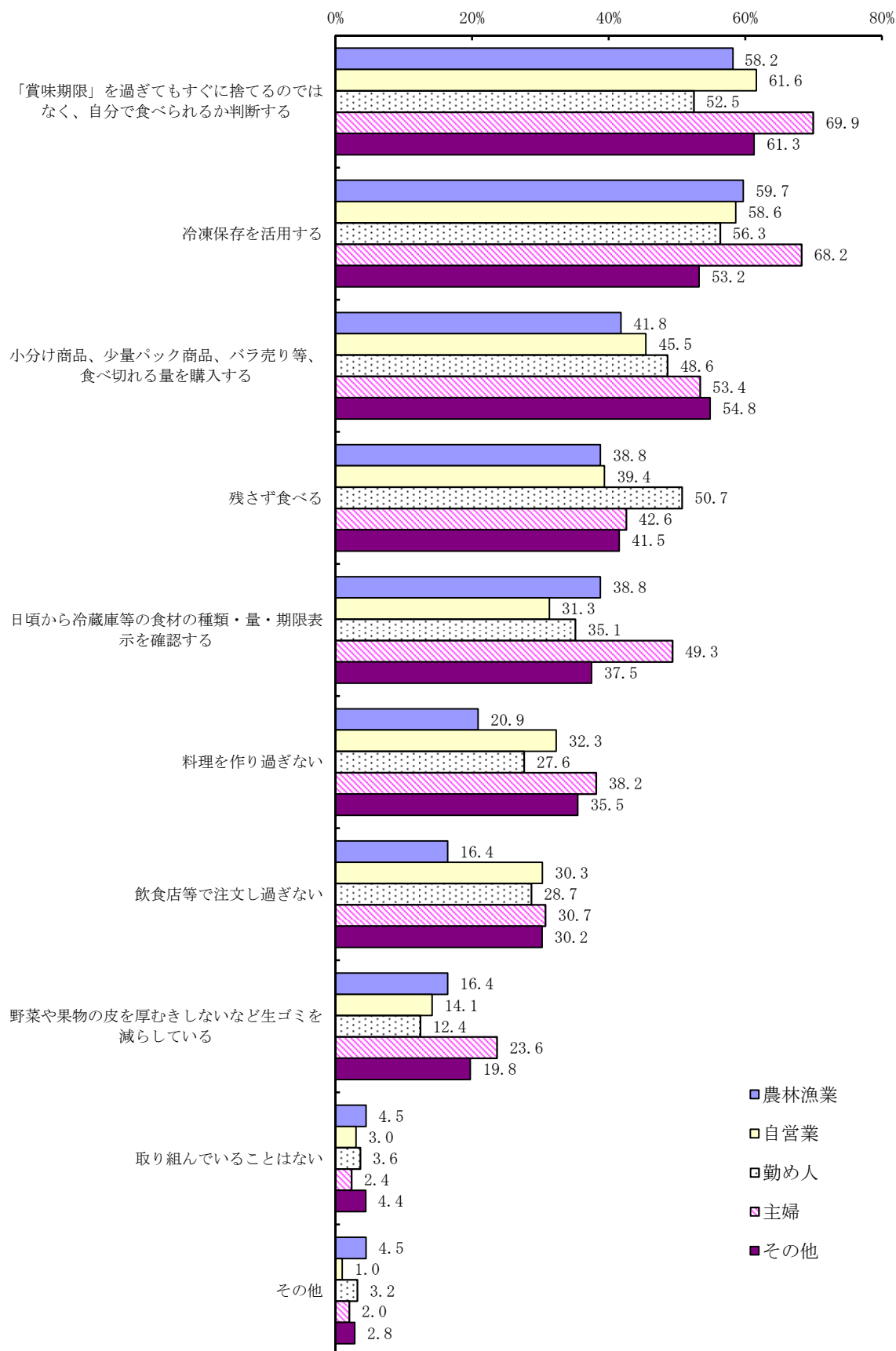
年齢別にみると、50歳代以上では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」と答えた人の割合が最も多く、20歳代以下及び40歳代では「冷凍保存を活用する」が最も多く、30歳代では「残さず食べる」が最も多くなっている。





【職業別】

職業別にみると、自営業、主婦及びその他では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業及び勤め人では「冷凍保存を活用する」が最も多くなっている。



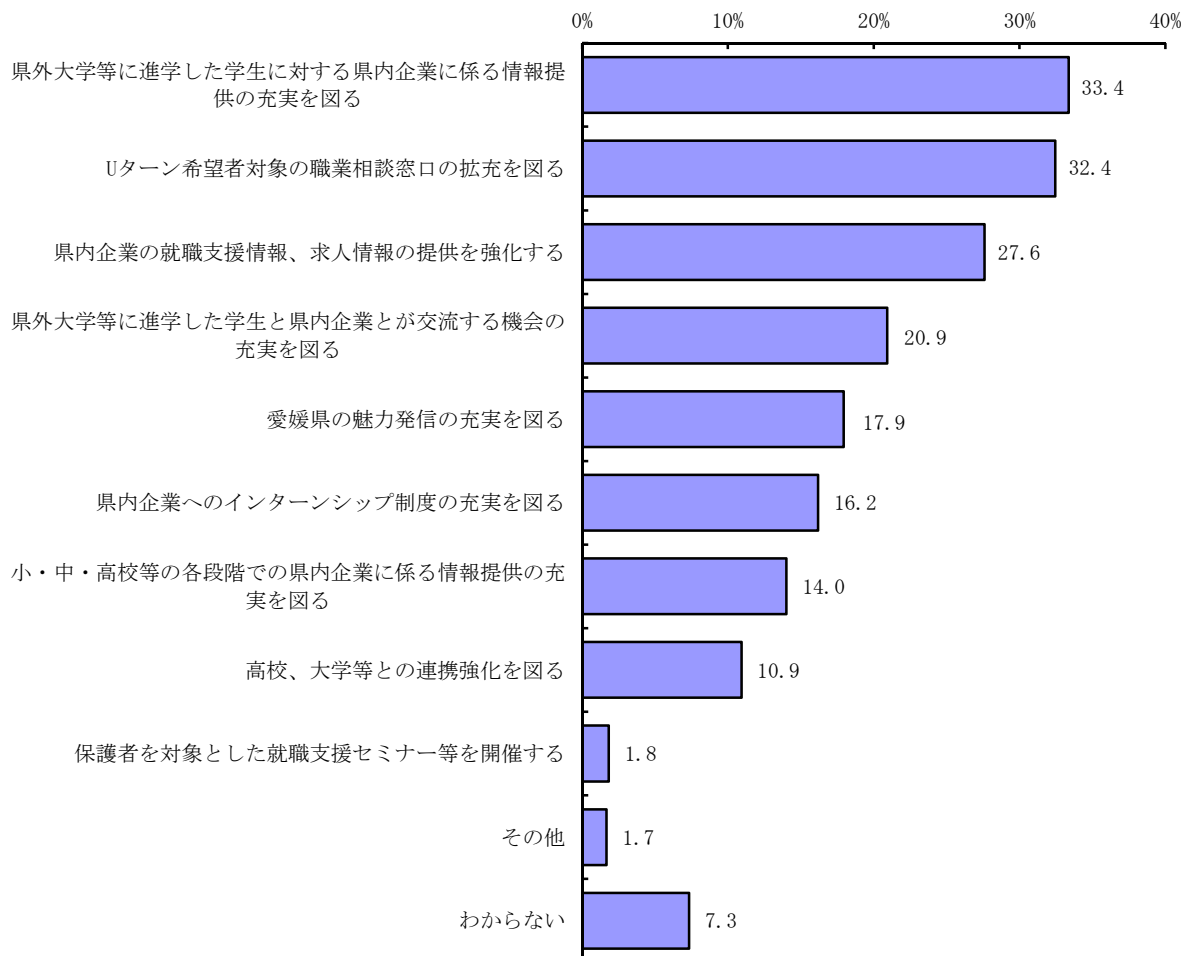
## Uターン就職

### 問35 Uターン就職の促進

あなたは、県外大学等に進学した学生のUターン就職促進を図るために、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県外大学等に進学した学生に対する県内企業に係る情報提供の充実を図る	33.4	33.4
2 小・中・高校等の各段階での県内企業に係る情報提供の充実を図る	14.0	14.0
3 県外大学等に進学した学生と県内企業とが交流する機会の充実を図る	20.9	20.9
4 県内企業へのインターンシップ制度の充実を図る	16.2	16.2
5 愛媛県の魅力発信の充実を図る	17.9	17.9
6 県内企業の就職支援情報、求人情報の提供を強化する	27.6	27.6
7 Uターン希望者対象の職業相談窓口の拡充を図る	32.4	32.4
8 保護者を対象とした就職支援セミナー等を開催する	1.8	1.8
9 高校、大学等との連携強化を図る	10.9	10.9
10 その他	1.7	1.7
11 わからない	7.3	7.3

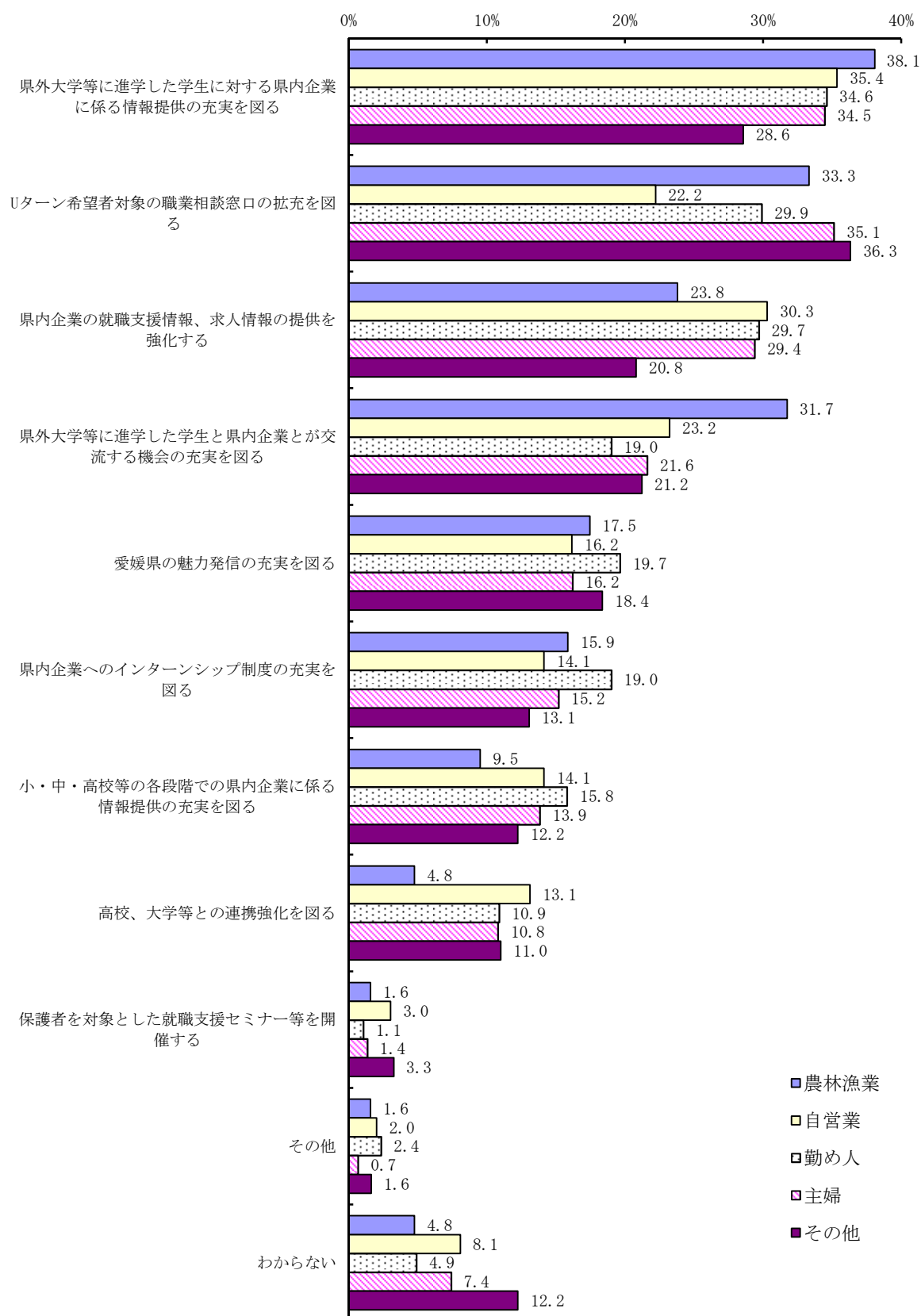
県外大学等に進学した学生のUターン就職促進を図るために、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「県外大学等に進学した学生に対する県内企業に係る情報提供の充実を図る」と答えた人の割合が33.4%で最も多く、以下「Uターン希望者対象の職業相談窓口の拡充を図る」(32.4%)、「県内企業の就職支援情報、求人情報の提供を強化する」(27.6%)、「県外大学等に進学した学生と県内企業とが交流する機会の充実を図る」(20.9%)、「愛媛県の魅力発信の充実を図る」(17.9%)などの順となっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業、自営業及び勤め人では「県外大学等に進学した学生に対する県内企業に係る情報提供の充実を図る」と答えた人の割合が最も多く、主婦及びその他では「Uターン希望者対象の職業相談窓口の拡充を図る」が最も多くなっている。

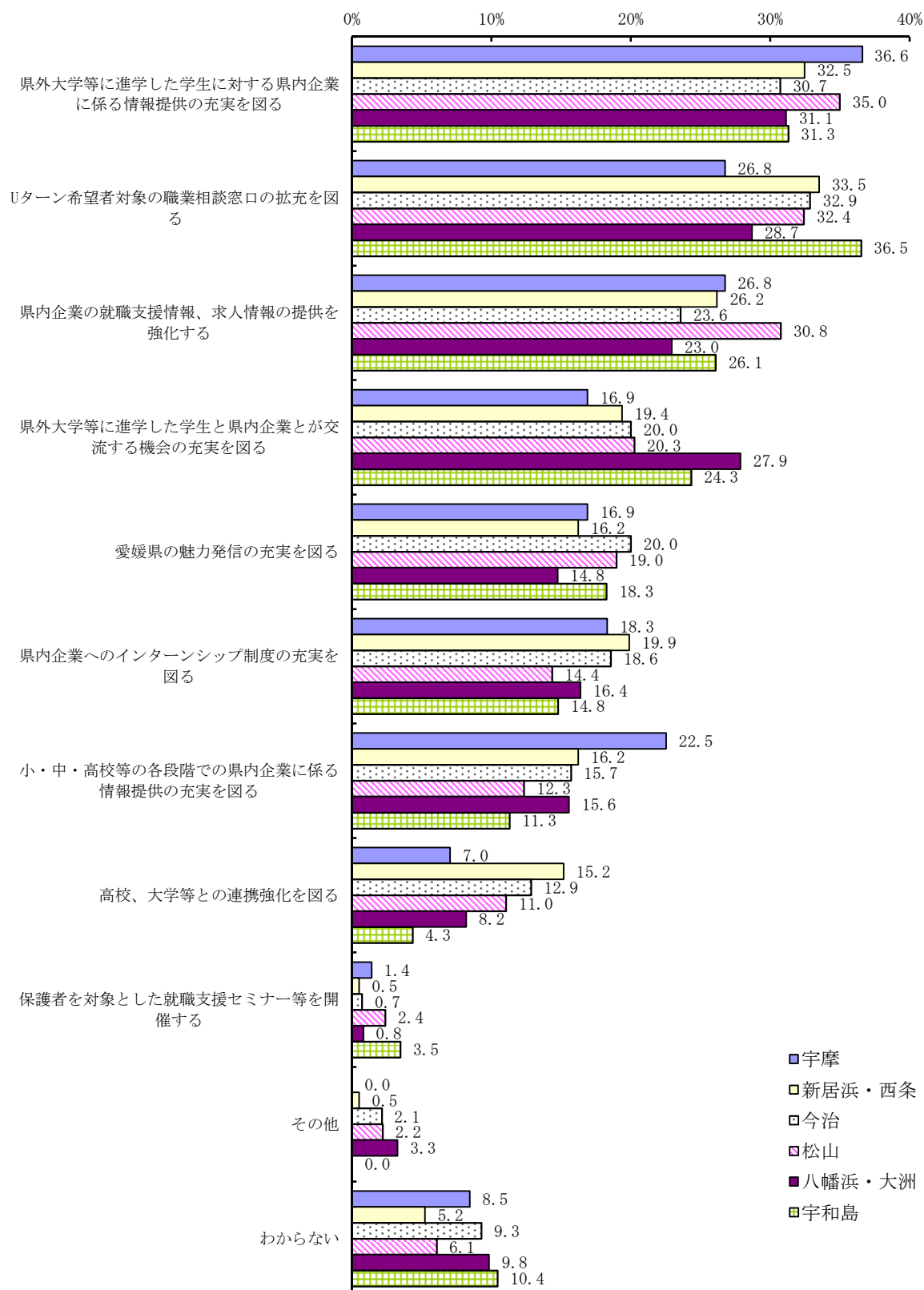
また、「県外大学等に進学した学生と県内企業とが交流する機会の充実を図る」と答えた人の割合は、農林漁業（31.7%）で他の職業と比較して特になくなっている。



## 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、松山圏域及び八幡浜・大洲圏域では「県外大学等に進学した学生に対する県内企業に係る情報提供の充実を図る」と答えた人の割合が最も多く、その他の圏域では「Uターン希望者対象の職業相談窓口の拡充を図る」が最も多くなっている。

また、「県外大学等に進学した学生と県内企業とが交流する機会の充実を図る」と答えた人の割合は、南予地域で他の圏域と比較して多く、「小・中・高校等の各段階での県内企業に係る情報提供の充実を図る」は、宇摩圏域で他の圏域と比較して多くなっている。



エコえひめ農産物

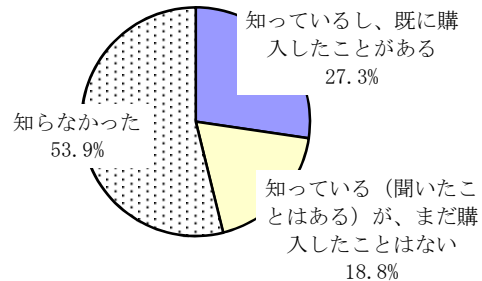
問36 エコえひめ農産物の認知度

「エコえひめ農産物」は、人にも環境にもやさしい農産物として、農薬と化学肥料を栽培基準から5割または3割以上削減して生産したものを、平成15年から県の制度に基づき認証したもので、次のマークを付けて販売しています。あなたは、この「エコえひめ農産物」をご存知ですか。また、購入したことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。



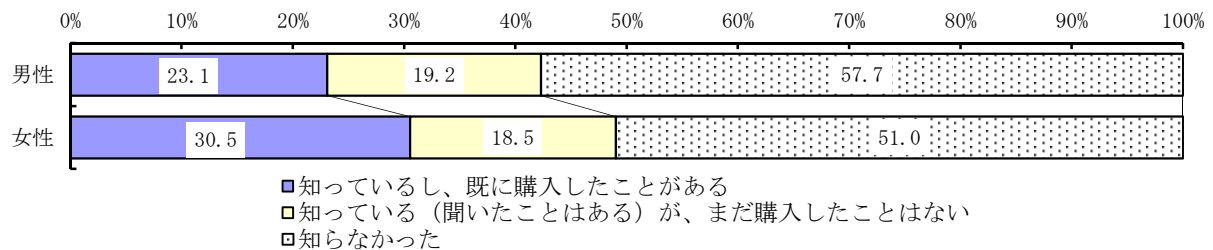
	(%)
1 知っているし、既に購入したことがある	27.3
2 知っている(聞いたことはある)が、まだ購入したことはない	18.8
3 知らなかった	53.9

「エコえひめ農産物」を知っているかを聞いたところ、「知らなかった」と答えた人の割合が53.9%と最も多く、以下「知っているし、既に購入したことがある」(27.3%)、「知っている(聞いたことはある)が、まだ購入したことはない」(18.8%)の順となっている。



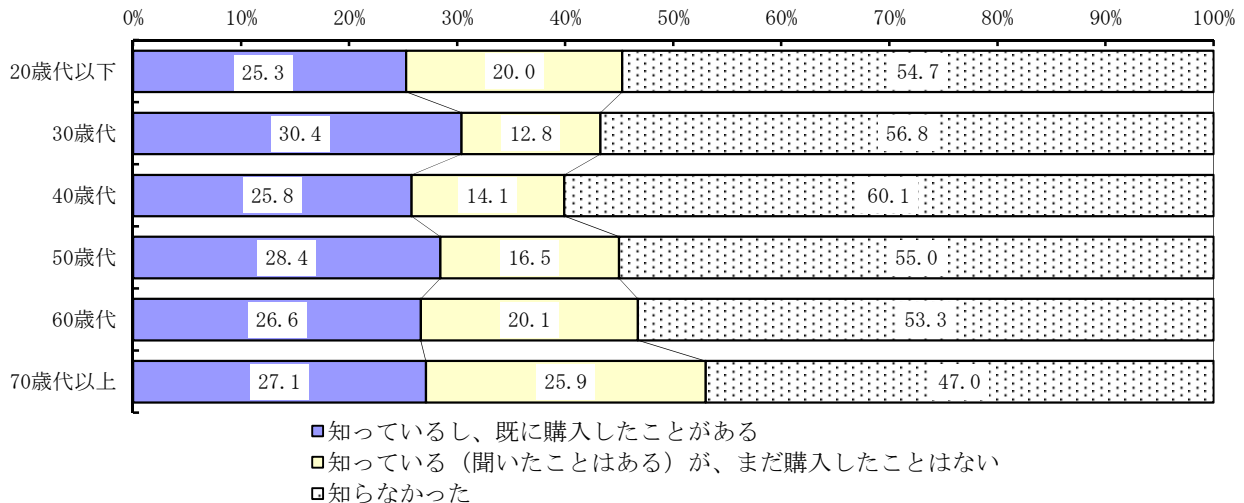
【性別】

性別にみると、「知っているし、既に購入したことがある」と答えた人の割合は、女性(30.5%)の方が男性(23.1%)より7.4ポイント多く、「知らなかった」は、男性(57.7%)の方が女性(51.0%)より6.7ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らなかった」と答えた人の割合が最も多く、「知っている(聞いたことはある)が、まだ購入したことはない」は、70歳代以上(25.9%)で他の年齢層と比較して多くなっている。



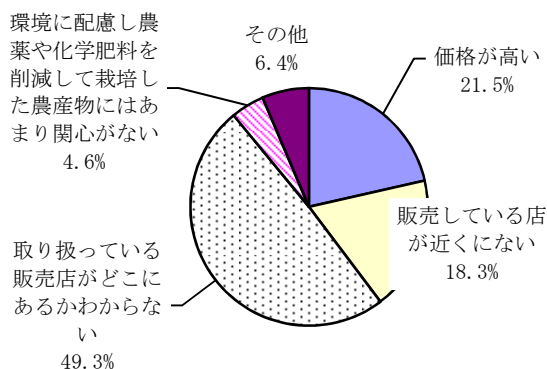
### 問36-1 購入したことがない理由

「エコえひめ農産物」のことは知っている（聞いたことはある）が、まだ購入したことはない理由について、最も当てはまるものを次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

(回答者=219人) (%)

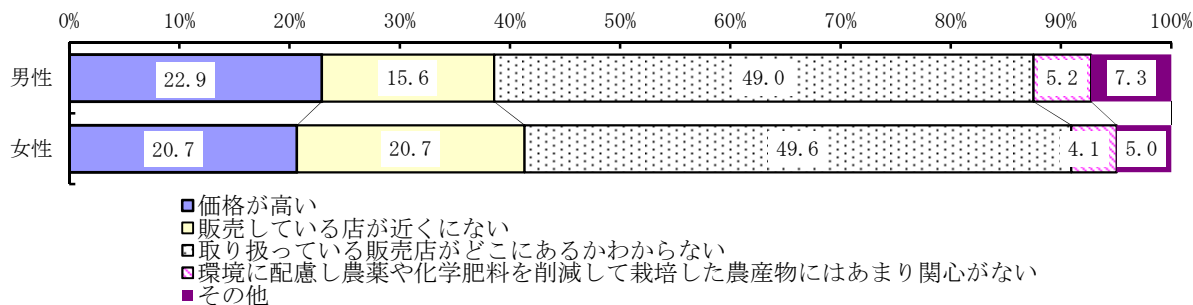
1 価格が高い	21.5
2 販売している店が近くにない	18.3
3 「エコえひめ農産物」を取り扱っている販売店がどこにあるかわからない	49.3
4 環境に配慮し農薬や化学肥料を削減して栽培した農産物にはあまり関心がない	4.6
5 その他	6.4

問36で、「「エコえひめ農産物」のことは知っている（聞いたことはある）が、まだ購入したことはない」と答えた人を対象に、その理由を聞いたところ、「取り扱っている販売店がどこにあるかわからない」と答えた人の割合が49.3%と最も多く、以下「価格が高い」(21.5%)、「販売している店が近くにない」(18.3%)、「その他」(6.4%)、「環境に配慮し農薬や化学肥料を削減して栽培した農産物にはあまり関心がない」(4.6%)の順となっている。



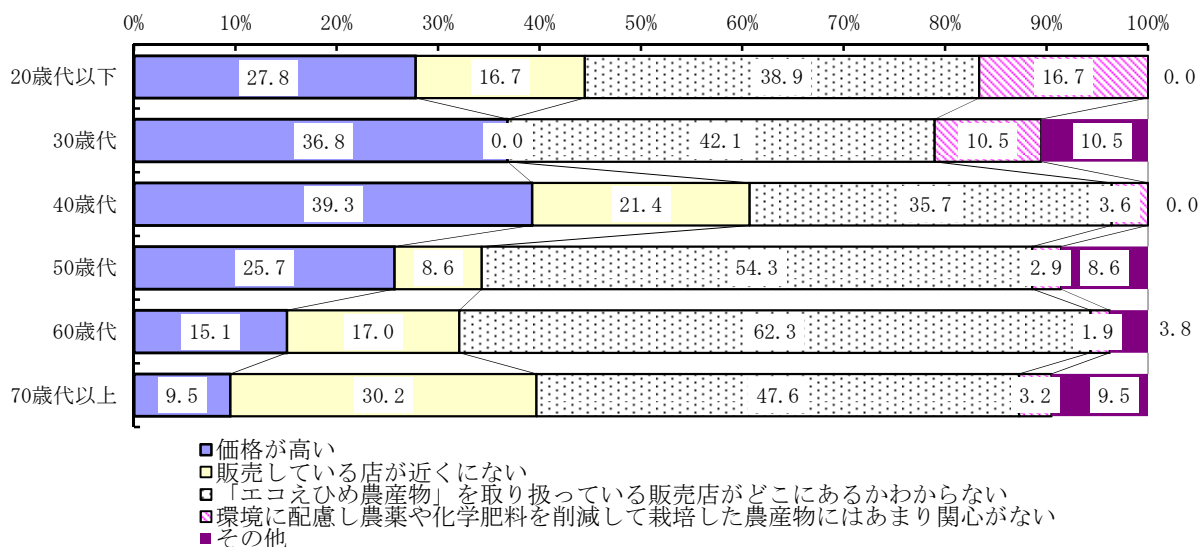
#### 【性別】

性別にみると、「価格が高い」と答えた人の割合は、男性(22.9%)の方が女性(20.7%)より2.2ポイント多く、「販売している店が近くにない」は、女性(20.7%)の方が男性(15.6%)より5.1ポイント多くなっている。



#### 【年齢別】

年齢別にみると、「価格が高い」と答えた人の割合は、30歳代(36.8%)及び40歳代(39.3%)が他の年齢層と比較して多く、「販売している店が近くにない」は、70歳代以上(30.2%)で他の年齢層と比較して多くなっている。



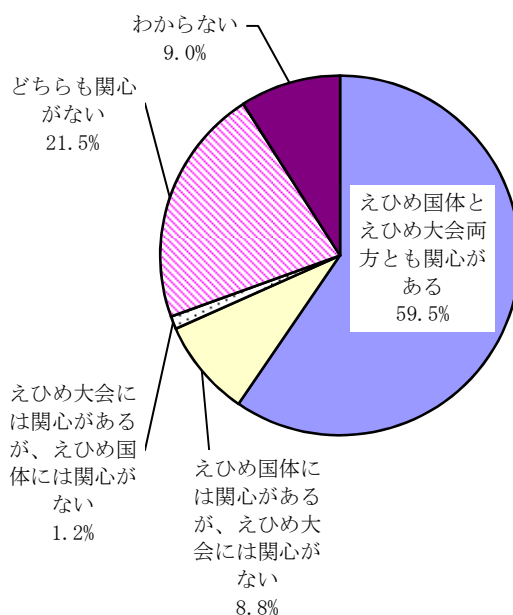
えひめ国体・えひめ大会

問37 えひめ国体・えひめ大会の関心度

あなたは、平成29年（2017年）に開催される、第72回国民体育大会（愛媛（えがお）つなぐえひめ国体（以下「えひめ国体」という。）と第17回全国障害者スポーツ大会（愛媛（えがお）つなぐえひめ大会（以下「えひめ大会」という。））に関心がありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある	59.5
2 えひめ国体には関心があるが、えひめ大会には関心がない	8.8
3 えひめ大会には関心があるが、えひめ国体には関心がない	1.2
4 どちらも関心がない	21.5
5 わからない	9.0

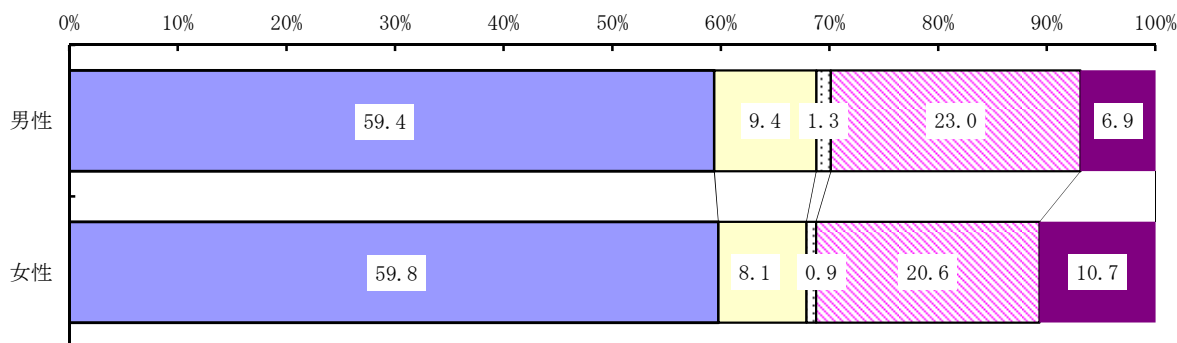
平成29年度（2017年）に愛媛県で開催される第72回国民体育大会（えひめ国体）と第17回全国障害者スポーツ大会（えひめ大会）に関心があるかを聞いたところ、「えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある」と答えた人の割合が59.5%で最も多く、以下「どちらも関心がない」（21.5%）、「わからない」（9.0%）、「えひめ国体には関心があるが、えひめ大会には関心がない」（8.8%）、「えひめ大会には関心があるが、えひめ国体には関心がない」（1.2%）の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある」と答えた人の割合が最も多く、60%程度となっている。

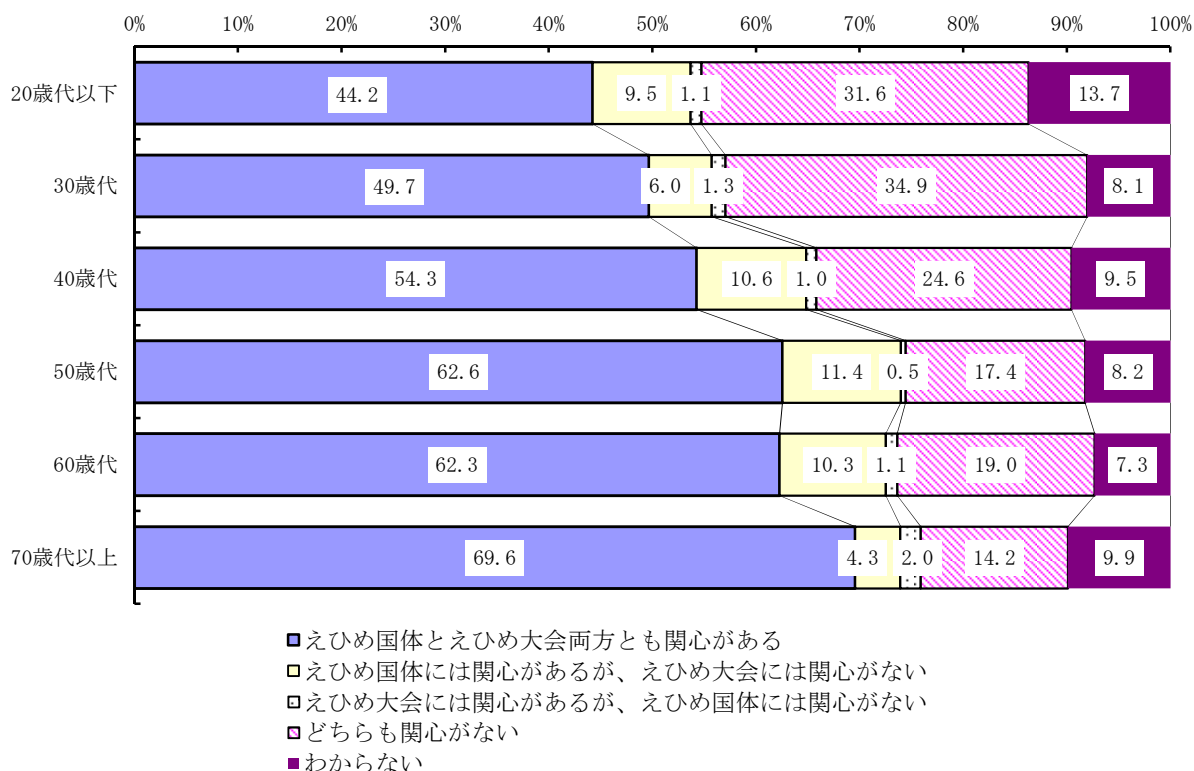
また、「どちらも関心がない」と答えた人の割合は、男性（23.0%）の方が女性（20.6%）より2.4ポイント多く、「わからない」は、女性（10.7%）の方が男性（6.9%）より3.8ポイント多くなっている。



- えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある
- えひめ国体には関心があるが、えひめ大会には関心がない
- えひめ大会には関心があるが、えひめ国体には関心がない
- どちらも関心がない
- わからない

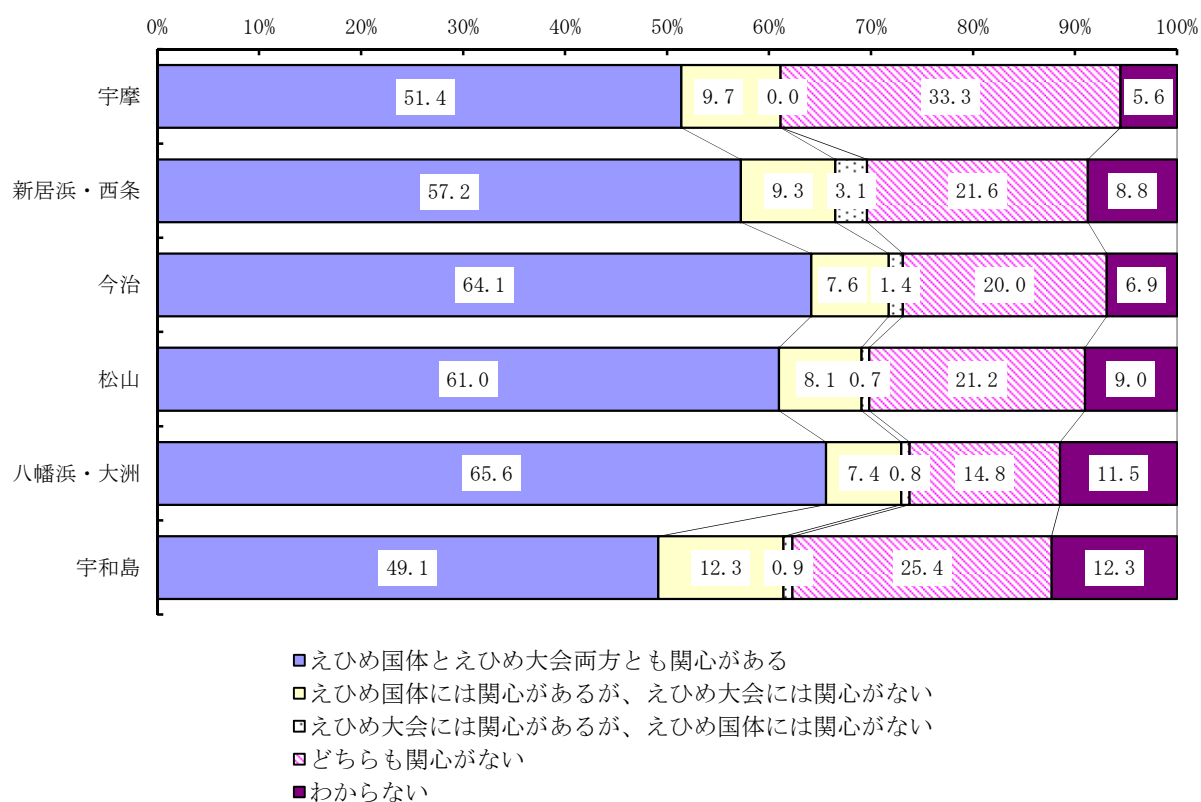
### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある」と答えた人の割合が最も多く、概ね年齢層が高くなるほど関心度が高くなっている。



### 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある」と答えた人の割合が最も多いが、「どちらも関心がない」は、宇摩圏域（33.3%）で他の圏域と比較して多くなっている。





### 問37-1 えひめ大会に関心がない理由

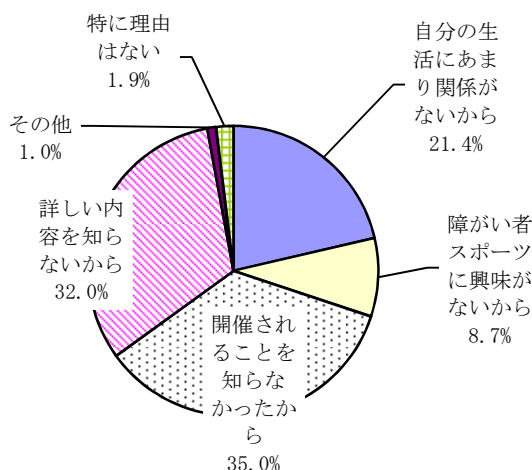
えひめ国体には関心があるが、えひめ大会には関心がない理由について、次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

(回答者=103人(注)) (%)

1	自分の生活にあまり関係がないから	21.4
2	障がい者スポーツに興味がないから	8.7
3	開催されることを知らなかったから	35.0
4	詳しい内容を知らないから	32.0
5	その他	1.0
6	特に理由はない	1.9

(注) 母数が少ないため、性別、年齢別等のクロス集計は省略

問37で、「えひめ国体には関心があるが、えひめ大会には関心がない」と答えた人を対象に、その理由を聞いたところ、「開催されることを知らなかったから」と答えた人の割合が35.0%と最も多く、以下「詳しい内容を知らないから」(32.0%)、「自分の生活にあまり関係がないから」(21.4%)、「障がい者スポーツに興味がないから」(8.7%)、「特に理由はない」(1.9%)、「その他」(1.0%)の順となっている。



### 問37-2 えひめ国体に関心がない理由

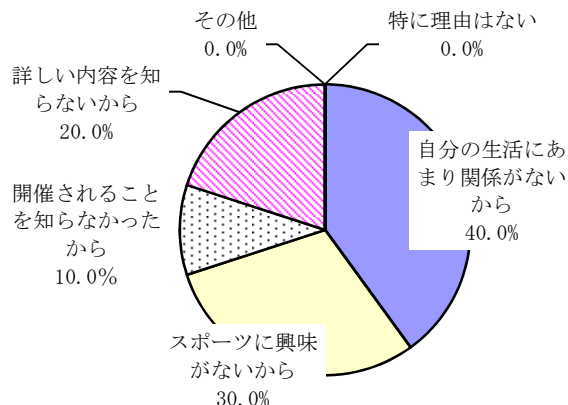
えひめ大会には関心があるが、えひめ国体には関心がない理由について、次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

(回答者=10人(注)) (%)

1	自分の生活にあまり関係がないから	40.0
2	スポーツに興味がないから	30.0
3	開催されることを知らなかったから	10.0
4	詳しい内容を知らないから	20.0
5	その他	0.0
6	特に理由はない	0.0

(注) 母数が少ないため、性別、年齢別等のクロス集計は省略

問37で、「えひめ大会には関心があるが、えひめ国体には関心がない」と答えた人を対象に、その理由を聞いたところ、「自分の生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合が40.0%と最も多く、以下「スポーツに興味がないから」(30.0%)、「詳しい内容を知らないから」(20.0%)、「開催されることを知らなかったから」(10.0%)などの順となっている。



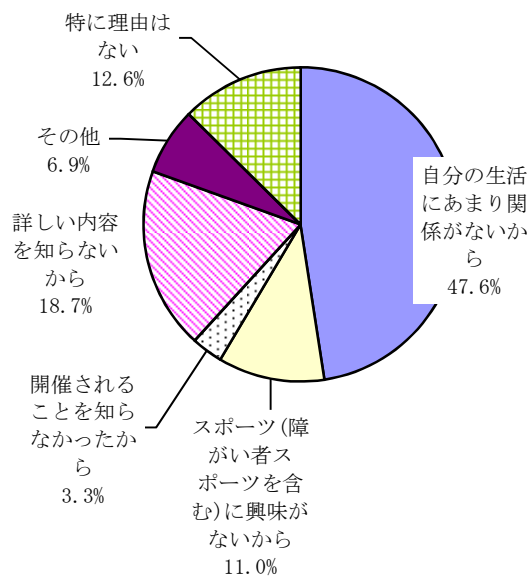
問37-3 えひめ国体及びえひめ大会に関心がない理由

えひめ国体及びえひめ大会のどちらも関心がない理由について、次の中から一つ選ん  
で番号を○で囲んでください。

(回答者=246人) (%)

1	自分の生活にあまり関係がないから	47.6
2	スポーツ(障がい者スポーツを含む)に興味がないから	11.0
3	開催されることを知らなかったから	3.3
4	詳しい内容を知らないから	18.7
5	その他	6.9
6	特に理由はない	12.6

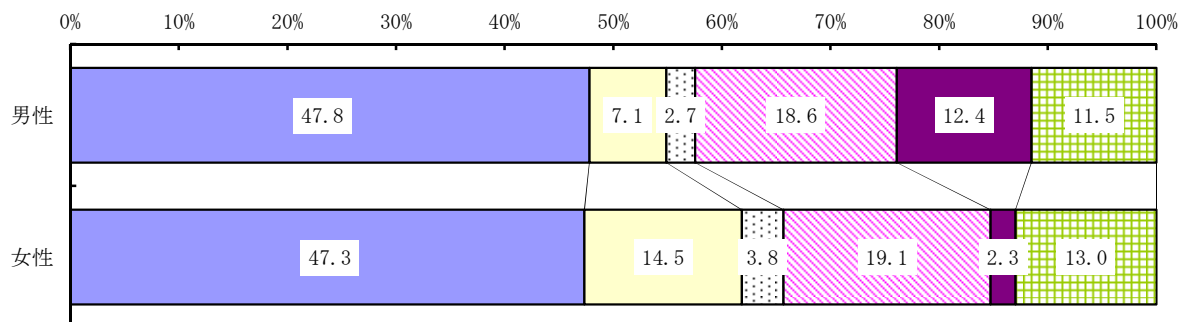
問37で、「どちらも関心がない」と答えた人を対象に、その理由を聞いたところ、「自分の生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合が47.6%と最も多く、以下「詳しい内容を知らないから」(18.7%)、「特に理由はない」(12.6%)、「スポーツ(障がい者スポーツを含む)に興味がないから」(11.0%)、「その他」(6.9%)、「開催されることを知らなかったから」(3.3%)の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「自分の生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合が最も多く、ほぼ同数となっている。

また、「スポーツ(障がい者スポーツを含む)に興味がないから」と答えた人の割合は、女性(14.5%)の方が男性(7.1%)より7.4ポイント多くなっている。

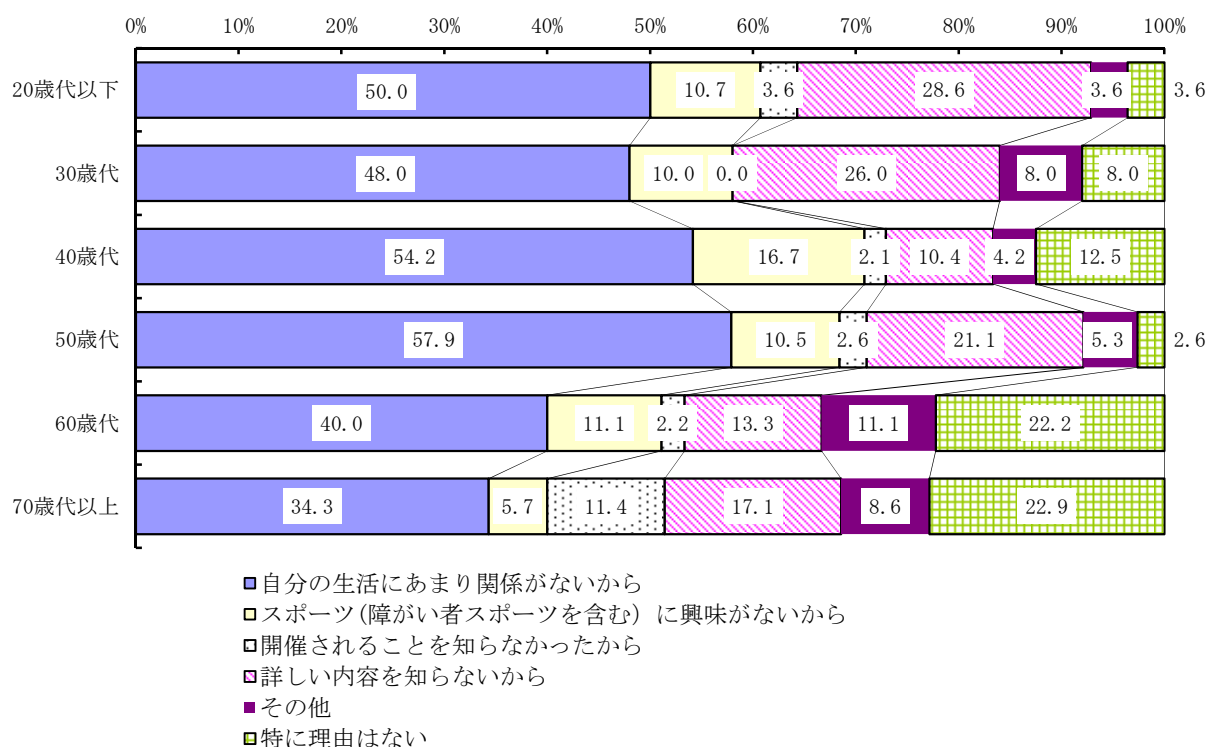


- 自分の生活にあまり関係がないから
- スポーツ(障がい者スポーツを含む)に興味がないから
- 開催されることを知らなかったから
- 詳しい内容を知らないから
- その他
- 特に理由はない

### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「自分の生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合が最も多く、その割合は、60歳代以上よりも50歳代以下のほうが多くなっている。

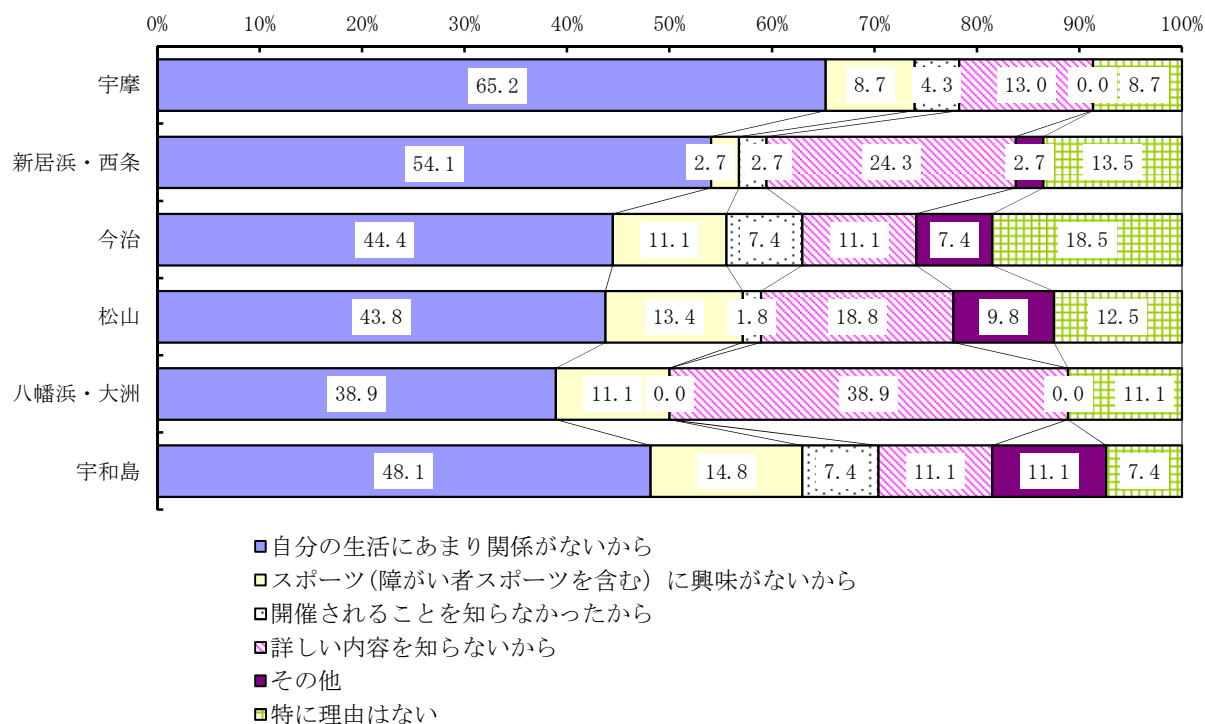
また、「詳しい内容を知らないから」と答えた人の割合は、20歳代以下（28.6%）及び30歳代（26.0%）で他の年齢層と比較して多くなっている。



### 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「自分の生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域（65.2%）で他の圏域と比較して多くなっている。

また、「詳しい内容を知らないから」と答えた人の割合は、八幡浜・大洲圏域（38.9%）で他の圏域と比較して多くなっている。



文化財への関心度  
問38 文化財の見学状況

あなたは、過去1年間（平成27年1月から平成27年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

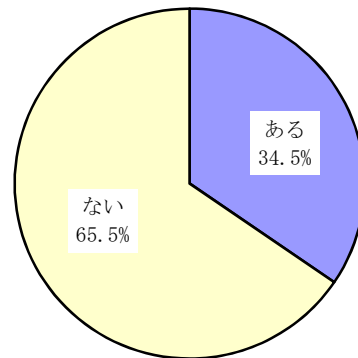
- |   |    |      |
|---|----|------|
|   |    | (%)  |
| 1 | ある | 34.5 |
| 2 | ない | 65.5 |

どのような文化財を見学されましたか。見学した文化財の種類について、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

(回答者=405人) (複数回答) (%)

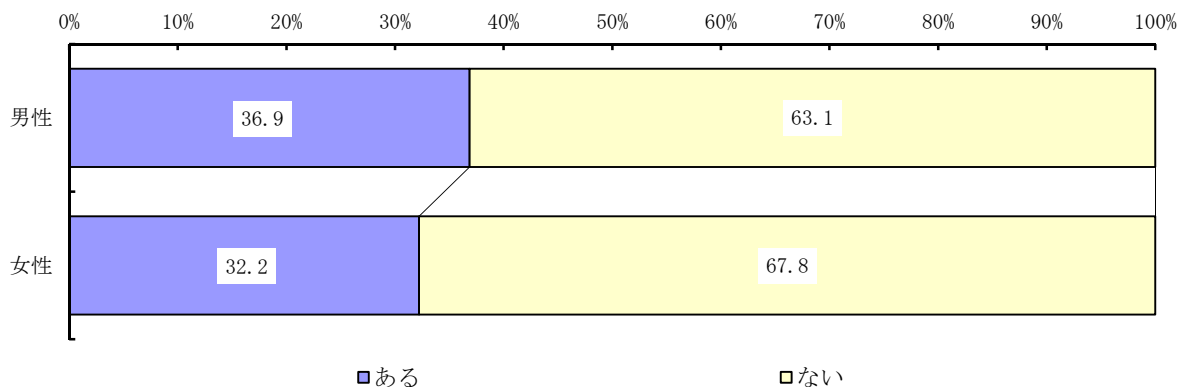
- |   |                   |      |
|---|-------------------|------|
| 1 | 建造物               | 62.7 |
| 2 | 絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品  | 36.0 |
| 3 | 演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財 | 14.6 |
| 4 | 生業・信仰・年中行事等の民俗文化財 | 12.1 |
| 5 | 史跡・名勝地・天然記念物      | 54.0 |
| 6 | 棚田・段畑等の文化的景観      | 18.3 |
| 7 | 伝統的建造物群保存地区       | 19.0 |

過去1年間（平成27年1月から平成27年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがあるかを聞いたところ、「ある」と答えた人の割合が34.5%、「ない」が65.5%となっている。



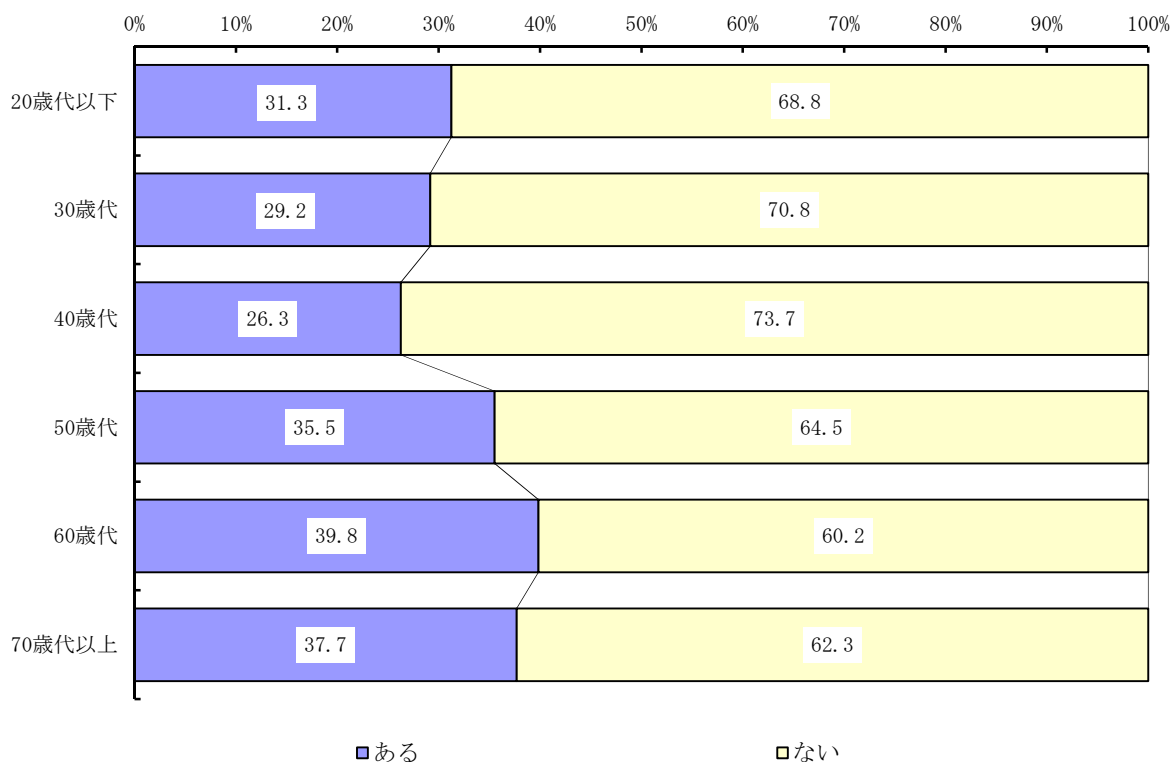
【性別】

性別にみると、「ある」と答えた人の割合は、男性（36.9%）の方が女性（32.2%）より4.7ポイント多くなっている。



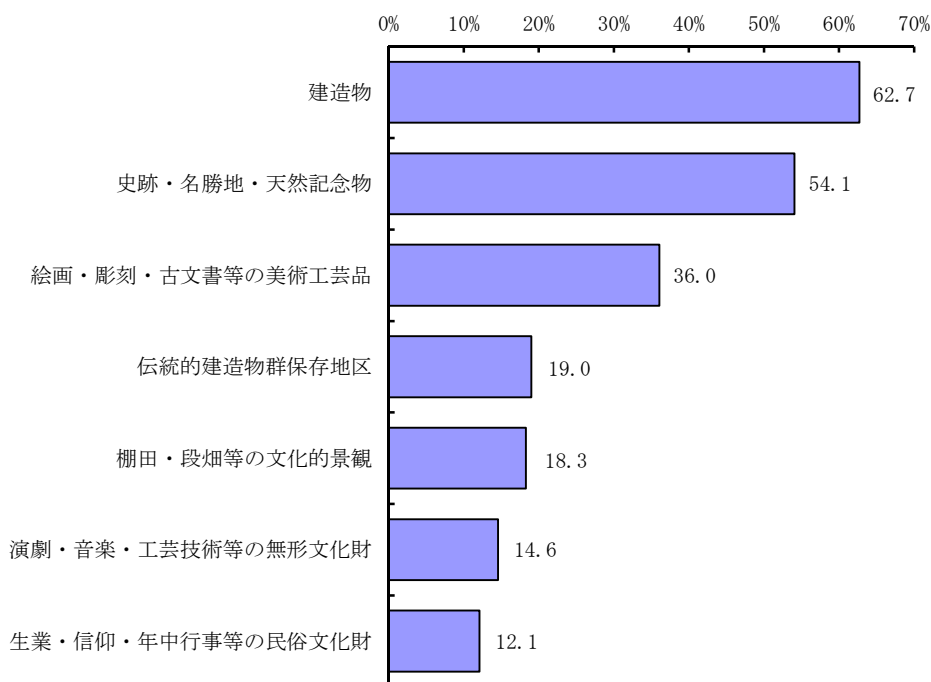
### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「ない」と答えた人の割合が多く、40歳代（73.7%）で他の年齢層と比較して多くなっている。



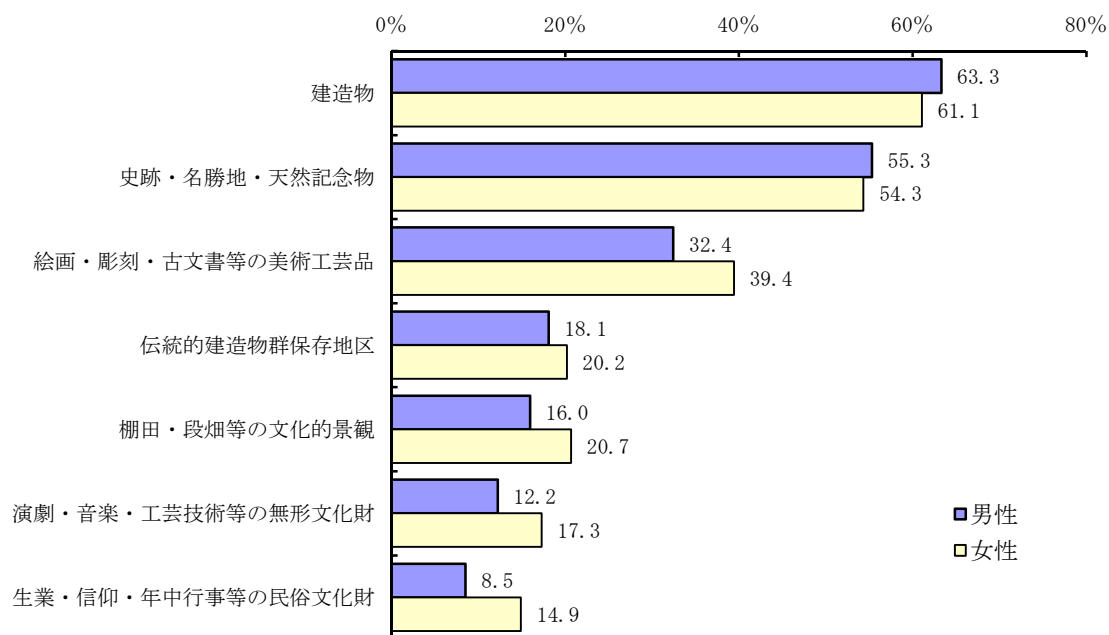
### 《見学したことがある文化財》

問38で、「ある」と答えた人に、見学したことがある文化財を聞いたところ、「建造物」と答えた人の割合が62.7%で最も多く、以下「史跡・名勝地・天然記念物」（54.1%）、「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」（36.0%）、「伝統的建造物群保存地区」（19.0%）などの順となっている。



### 【性別】

性別にみると、「建造物」及び「史跡・名勝地・天然記念物」と答えた人の割合は、男性が女性を若干上回っているが、それ以外は男性より女性の方が多くなっている。



### 【年齢別】

年齢別にみると、70歳代以上を除く全ての年齢層で「建造物」と答えた人の割合が最も多く、70歳代以上は、「史跡・名勝地・天然記念物」が最も多くなっている。

また、「生業・信仰・年中行事等の民俗文化財」と答えた人の割合は、30歳代以下で他の年齢層と比較して特に少なくなっている。

